

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：病理細胞検査研究班 提出日：平成 30 年 6 月 10 日 報告者：藤田智洋

行事種別	研究会	行事番号	170064974
開催日	平成 30 年 5 月 19 日 (土)		
時間	開始	15 時 00 分	終了 17 時 00 分
場所	(株)カーク本社ビル 5 階 大会議室 (所在地 名古屋市東区)		
テーマ	病理組織検査の検体処理工程 ～プロセッシング、脱脂、脱灰～		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司会	小牧市民病院	藤田 智洋	
講師	総合大雄会病院	鈴木 健太郎	
	サクラファインテックジャパン株式会社	篠田 宏	
	JA愛知厚生連 豊田厚生病院	田中 浩一	
内容	<p>「プロセッシングについて」鈴木</p> <p>固定組織は多量の水(主にホルマリン由来)などが含まれる。この状態の組織に対して十分なパラフィン浸透を行う工程がプロセッシングである。プロセッシングは機械で行われ、自動包埋装置にセットすると自動でパラフィン浸透した組織ができあがるが、装置内の各工程の薬液、組織片の厚さを管理しないとパラフィン浸透が不良になり標本が作製できなくなる。</p> <p>今回の講演では、プロセッシングの原理、各工程を確実にを行うポイント、プロセッシングで使う薬液の環境対策と関係法規までを詳しく説明して頂いた。</p> <p>「脱脂・脱灰の原理」篠田</p> <p>脂肪成分を多く含む組織はパラフィンが十分に浸透せず薄切が困難となるため、前処理として脱脂という操作が必要となる。脱脂が不十分だと、薄切が困難なばかりでなく伸展時に切片がバラバラになってしまう。</p> <p>骨や組織内の石灰沈着部など固い部分は、そのままの状態では薄切困難であり脱灰をおこなう必要がある。病理検査業務では頻繁におこなわれる脱灰だが、それによる組織構造の変化や破壊、染色性の低下などが極力少ない方法を選択することが重要である。</p> <p>通常の業務において、脱脂・脱灰が不十分で薄切が上手くできないことがある。今回の講演では、脱脂の原理とポイント、使用薬剤による脱脂力の違い、自動包埋装置で脱脂をおこなうプログラム例などを解説して頂いた。脱灰でも、原理と種々脱灰液の特徴、脱灰による染色・免疫染色・核酸 DNA への影響、操作のポイントまで業務に役立つ内容で詳しく解説して頂いた。</p>		

	<p>「病理検査技師の取得資格について」 田中</p> <p>認定病理検査技師、細胞検査士、二級臨床検査士(病理学)、特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者、有機溶剤作業主任者、特別管理廃棄物管理責任者など病理で働く技師には取得を目指す多くの資格がある。今回の講演では、講師施設の資格取得状況から取得順序、取得方法、新人技師が最初に挑戦すべき二級臨床検査士の試験内容を詳しく解説して頂いた。</p> <p>いつも何気なくおこなっているプロセッシング、脱脂、脱灰作業も、原理から理解することによりさらに知識が深まった。各工程に使われるさまざまな薬液の違い、操作のポイントなど詳しく解説して頂き、新人技師だけでなくベテラン技師にも非常に勉強になる内容であった。</p> <p>取得資格の講演でも、各資格に対する詳しい解説だけでなく、資格試験の例題を聴講者に答えてもらうなど参加型の講演となった。</p> <p>各講義に対し活発な質疑があり、有意義な研究会であった。</p>
参加者	総数：64名（会員63名、賛助会員1名）
共催、後援など	

2016.6.28

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：病理細胞検査研究班 提出日：平成 30 年 10 月 17 日 報告者：藤田智洋

行事種別	基礎講座	行事番号	180010066
開催日	平成 30 年 9 月 16 日 (日)		
時間	開始	9 時 00 分	終了 16 時 00 分
場所	名古屋大学 大幸キャンパス (所在地 名古屋市東区)		
テーマ	肺がん Up-to-Date		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司会	小牧市民病院	藤田 智洋	
講師	小牧市民病院	藤田 智洋	
	豊川市民病院	都築 菜美	
	JA愛知厚生連 海南病院	北島 聖晃	
	名古屋第一赤十字病院	郡司 昌治	
内容	<p>「総論」藤田 肺の解剖、疫学、診断、治療の基礎的な内容を説明した。普段は治療に関わることが少ないため、知識を深めることを目的に、病期に対する一般的な治療法（手術、放射線療法、薬物療法）を解説した。</p> <p>「肺の感染症」都築 サイトメガルウイルス、アスペルギルス、クリプトコッカス、抗酸菌などの形態学的特徴やグロコット染色、チールネルゼン染色の染色手技のポイントを分かりやすく解説された内容であった。講演終了後の質問では、参加者から多数質問があり、感染症に関する受講者の関心の高さが見受けられた。</p> <p>「肺の細胞診」北島 前半は肺癌の一般的な自覚症状や臨床症状について説明と、胸部エックス線検査と胸部 CT 検査の撮影方法、読影方法について講義が行われた。後半は感染症、良性疾患、悪性腫瘍など 10 症例について、細胞診所見にそれぞれの疾患に特徴的な臨床所見や画像所見をまじえて講義が行われた。</p> <p>「コンパニオン診断の実際と課題」郡司 遺伝子検査における検査の精度を保つためには、組織の固定、特に固定の質が大事であること、腫瘍の比率は 10%以上であること、それから腫瘍の形態の違いに注意が必要であることを学んだ。さらにはコンパニオン診断の応用まで幅広く勉強できる講義であ</p>		

	<p>った。</p> <p>「実習」</p> <p>「病理組織検査における FISH 法を使った染色体異常の観察を体感しよう」「AiCCLS 細胞診アトラスを使った検鏡実習」を 2 つのグループに分かれ行った。</p> <p>FISH の実習では、原理と操作方法について詳しく講義を行ってから、実際に蛍光顕微鏡を使い少人数でシグナルの観察を行った。</p> <p>検鏡実習は、愛知県標準化評議会から発刊された「細胞診アトラス 呼吸器シリーズ」の症例を中心に行った。良性、炎症、悪性の 23 症例を実際に顕微鏡で検鏡することにより理解が深まったと考える。</p> <p>日進月歩の肺がん治療を学ぶため、臓器を“肺”に限定して行った。遺伝子検査での固定の重要性、感染症の染色ポイントなど日々の業務に関連した内容で肺全般を学べる有意義な基礎講座であった。</p>
参加者	総数：67 名（会員 67 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）
共催、後援など	



	<p>しているかを予測できると考えられる。以上の内容に加え、好中球、リンパ球、その他（組織球、異型細胞、中皮細胞等）の3分類の必要性についても講演された。</p> <p>3) 末武技師による体腔液の細胞診（ギムザ染色を中心に）の講演では、中皮細胞、組織球、腺癌の違いを、きれいなギムザ染色標本を使い、わかりやすく解説された。普段遭遇する振り分けの迷う細胞を、それぞれの特徴を踏まえ説明をうけた。体腔液の細胞診で基本的なところがしっかり網羅されていた。</p> <p>4) 広瀬技師による体腔液の病理検査（標本作成方法と応用）の講演では、体腔液の標本作製方法（セルブロック）やその応用まで解説された。セルブロックから癌の組織型や正常との鑑別、さらにはコンパニオン診断まで応用できることを、事例を交えながら説明をうけた。同じ院内で一般検査部門と病理細胞検査部門が、分からない細胞をお互い聞き合えればお互いのレベルアップにつながると感じた。</p>
参加者	総数：103名（会員 103名、県外会員 0名、非会員 0名、賛助会員 0名、学生 0名、その他 0名）
共催、後援など	

2016.6.28

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：病理細胞検査研究班 提出日：平成 31 年 3 月 11 日 報告者：吉本 尚子

行事種別	講演会	行事番号	180031519	
開催日	平成 31 年 2 月 16 日 (土)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	17 時 00 分
場所	リップルスクエア (所在地 名古屋市東区)			
テーマ	平成 30 年度愛臨技精度管理事業、泌尿器細胞診について			
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点			
司会	公立西知多総合病院	吉本 尚子		
講師	公立陶生病院	柚木 浩良		
	藤田医科大学病院	川島 佳晃		
	公立西知多総合病院	今井 律子		
内容	<p>「精度管理報告 細胞部門」柚木 平成 30 年度愛臨技精度管理・細胞部門の結果報告が行われた。フォトサーベイ 10 症例について詳しい解説がされた。今年度は全問正解率 100%という良好な結果であった。</p> <p>「精度管理報告 病理部門」川島 平成 30 年度愛臨技精度管理・病理部門の結果報告が行われた。フォトサーベイについて詳しい解説がされた。また、同時に行ったアンケート調査の結果報告も行われた。愛知県下施設のホルマリンの使用状況と特別染色の実施状況についての内容であり、自施設の運用に参考になったと思われる。</p> <p>「泌尿器細胞診報告様式 2015 の概要と細胞所見」今井 講義前半は、泌尿器細胞診報告様式 2015 の概要について講演が行われた。後半は、泌尿器分野の良性疾患、悪性疾患について、各々の疾患に特徴的な細胞所見の写真をまじえての講演が行われた。各々の症例に対して数枚の写真を呈示し解説されたので、より理解が深まったと考える。講演後の質疑応答では多くの質問が出て、泌尿器細胞診を克服したいという関心の高さが感じられた。泌尿器細胞診の重要性を学べる有意義な講演会であった。</p>			
参加者	総数：60 名 (会員 60 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名)			
共催、後援など				